

# マリレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部  
マリレジャー安全推進室  
TEL 093-321-2931  
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho.mlit.go.jp

第51号(平成21年10月)

## 自己の技量・体力を自覚して!



平成21年9月  
プレジャーボート等  
海難発生隻数

合計	14隻
衝突	3
乗揚	3
転覆	0
浸水	0
推進器障害	2
舵障害	0
機関故障	4
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	2
安全阻害	0
その他	0

9月19日午後3時頃、男性(46歳)は、ライフジャケット及びウエットスーツを着用して、山陽小野田市焼野海岸沖合で仲間数名とウインドサーフィン中、折からの強風にあおられて技量不足と疲労により自力で海岸に戻れなくなり、沖合に流されました。目撃者からの118番通報により出動した宇部海上保安署所属監視取締艇により、同海岸沖合約2,000mで発見され、無事救助されました。

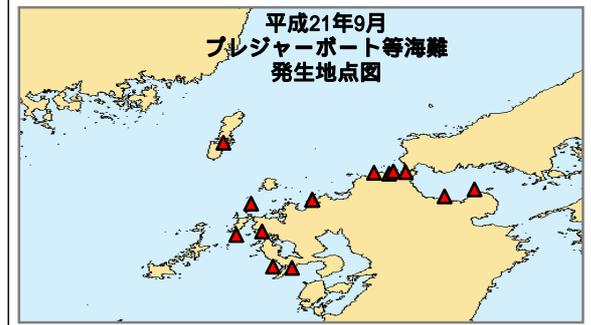
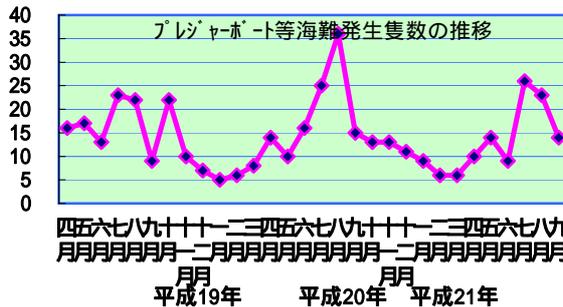


### ～ 事故からの教訓 ～

マリレジャーを楽しむときは、事前に気象・海象情報を入手しておき、海上では天候が急変することがあるので常に海上模様や雲の動き等に注意しましょう。漂流した場合を考え、ライフジャケット及び目立つ色の専用ウェア等を着用し、防水パック入り携帯電話を身に付けておきましょう。十分なウォーミングアップを行い、自己の技量、体力を十分に理解し、無理をしないようにしましょう。



海の事件・事故は  
局番なし「118」



## ーしっかり見張って 早めの衝突・乗揚げ回避ー

### 10月1日から14日まで 漁船海難防止強化運動

### 漁船海難を防ごう!!

しっかり見張って 早めの衝突・乗揚げ回避  
～あなたの安全・家族の安心～

自己救命策3つの基本  
・救命胴衣の常時着用  
・携帯電話などの連絡手段の確保  
・海の「もしも」は118番

漁船海難防止強化運動実施中  
10月1日(木)～10月14日(水)

水産庁九州漁業調整事務所 九州漁協 第七管区海上保安本部  
門司地方・長崎地方海難審判所 運輸安全委員会事務局門司事務所・長崎事務所  
(社)西部海難防止協会 (財)海上保安協会門司地方本部

#### 重点事項

・見張り不十分による衝突、乗揚げ海難の減少

過去5年間の全海難船舶のうち、漁船海難は全体の35%を占め、最多となっています。なかでも、漁船衝突海難は、見張り不十分によるものが81%を占めています。

この状況を踏まえ、漁船海難の減少を図るため、10月1日から14日までの間、「漁船海難防止強化運動」を実施しています。

一方、プレジャーボートの海難発生数は、漁船海難とほぼ同数の34%となっています。

マリレジャーを楽しむ皆さん、衝突・乗揚げ海難を防止するために、航海中はもちろん、投錨しての遊漁中も、**常時適切な見張り**をお願いします。



しっかり見張って海難を防止しましょう!

このイラストは関係者の協賛で制作されています。(R2)10

## 「#」ってなあに？

「海図を見ていると、ときどき目にする記号“#”はどういう意味でした？」海の相談室にも“ときどき”こんな質問が寄せられます。

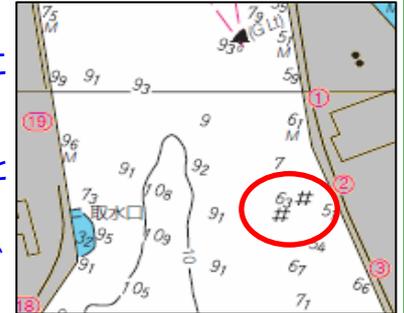
世界共通言語である海図に使われる記号は、浮標、煙突、塔など、その形を取り入れた記号、病院、郵便局など、それをイメージできる記号が使われています。その中にあって、“#”は、暗岩記号の“+”などと同じ仲間、危険物の記号です。

### 険悪物とサンドウェーブ

#### (1) 険悪物( # 右図参照)

険悪物とは、海底に存在するコンクリート塊・沈木・鋼材その他錨泊に障害となる異質物をいいます。海図上での“記号と位置”の関係は次のとおりです。

- ・ 険悪物の水深が周囲の水深より浅い場合にはその水深数字の中心となり、下に“#”を付記します。
- ・ 周囲の水深より深い場合には“#”を単独で記載し、険悪物の位置は、記号の中心です。

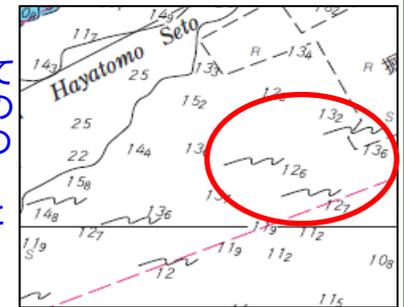


険悪物が多数存在するときは、その区域が分かるように記載されます。険悪物の存在する海域や地点での投錨を避けることが肝要です。

#### (2) サンドウェーブ(\*波線、右図参照)

サンドウェーブは流れの速い砂質の海底にしばしば見られる波状の起伏で、移動することが知られています。大きなサンドウェーブによって特徴づけられ、海底地形が移動することが判明している海域では、その範囲が分かるように所々に記号が記載されています。サンドウェーブのある海域では、図載水深は変化するものと考えなければなりません。

また、このような海域を航行するときには、十分な余裕水深をとることが望ましいです。



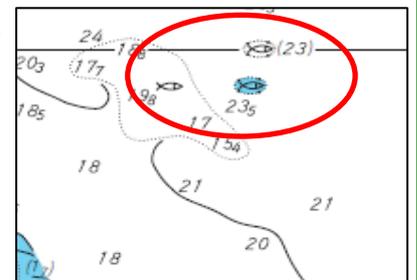
### 魚礁

日本の沿岸には数多くの魚礁が存在するが、水深が30mより深い海域のものは原則として海図には記載されません。測深された魚礁で底質略語による表現が適当と思われる場合には、St(石)や#(険悪物)などで表示されることもあります。

海図上の魚礁の位置と水深は、次のとおりです。

#### 魚礁(魚マーク、右図参照)

- ・ 水色に彩色された魚礁マークは、報告等によるもので、位置の精度が不足した資料で、水深不明の場合がある。
- ・ 魚礁マークの直近にカッコ付き数字(=水深)があるものは、マークの中心に魚礁があり、魚礁上にその水深があります。
- ・ 点線で囲まれた範囲に、水深と魚礁マークがある場合は、点線で囲まれた範囲に魚礁が点在し、その範囲で周囲の水深より浅いものを表示しています。



魚礁のある所は、投錨に不適であることはいまでもありませんが、浅い海域の魚礁は航行に危険となる場合もあるので、十分な注意が必要です。

海の情報交差点(<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/top.htm>)では、**海図**についての情報も提供しています。